



岡田小学校 令和7年度 学校だより

12月22日発行

ふ れ あ い

学校の様子→



特別支援教育で 子どもの心がひらく

4年生の国語科で「アップとルーズで伝える」という学習があります。アップとは、ある部分を大きくうつす撮り方のことで、ルーズとは、広い範囲をうつす撮り方のことです。学習では、それぞれに長所や短所があり、何かを伝えるときには、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりすることが必要であることを学びます。



アップ



ルーズ

子どもの特性において、アップのように「細かい部分に目が行く子（仮称：Macタイプ）」、ルーズのように「全体の状況を捉える子（仮称：Windowsタイプ）」がいます。それぞれに長所や短所はありますが、集団での一斉授業の中では、Macタイプの子は、自分の学習ペースやこだわりたい学習があるため、一斉授業の流れに苦痛を感じたり、先生や友達が言っていることが耳に入らず、辛い思いをしたりしています。そんな困っている子どもたちのために、岡田小学校では、特別支援教育を大切にしています。

もし、私たちが、次のような状況になったら、どう感じるでしょうか。

突然、学習を外国語で教えられたら・・・

終わりのない行動を強いられたら・・・

自分の行動をいちいち否定されたら・・・

雑音の中で学習することを強いられたら・・・

いっぺんに多くの指示をされたら・・・

ものすごくしたいことが別にあったら・・・

できないことを馬鹿にされたら・・・

だれしも、心が固まってしまいます。



医師の診断がなくても、「人づきあいの弱さ」「やりとりの弱さ」「こだわり」の特性、「読み、書き、計算の弱さ」の特性や、「不注意・衝動性・多動性」の特性をもった子どももいます。



子どもの特性において、中枢神経が生まれつきうまく働かない子、得意・不得意の差が大きい子、状況を正しく理解できずに不安な気持ちになる子がいいます。そんな子どもの困り感を減らし、「自分ならできる」という自己効力感を育てる場所が特別支援学級です。



特別支援学級（ひまわり）では、子どもの特性に応じて学級を編成し、1学級の人数を8人以下にしたり、柔軟な教育課程にしたりすることで、きめ細かな対応が可能となるので、子どもは安心して授業に参加し、できることが確実に増えます。

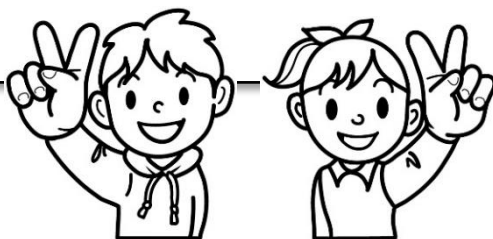
岡田小では、子ども理解が支援の第一歩と捉え、「何がわかって、何がわからないのか」「何が好きで、何が苦手か」「何をしていると落ち着くか、どんなとき怒るか」「嬉しいとき、怒ったとき、悲しいとき、どう表現するか」など、子ども理解を通して、得意なことを見つけ、それをさらに伸ばしていきます。

また、子どもが何かを成し遂げたいとき、その子が抱く困り感を減らす支援（合理的配慮）を大切にしています。



通級指導教室（たんぽぽ）では、さまざまな要因により、学校生活を送るうえで、困難を抱えている子どもに対して、特性や状況に合った指導を行うことで、情緒の安定と解放を図ったり、自己肯定感を高めたりすることで、前向きに過ごすことができるようにしています。

岡田小では、週1回の個別指導で、子どもの特性やニーズに合わせて、感覚統合、遊戯療法、ソーシャルスキルトレーニング、ビジョントレーニング、聞き取りトレーニング、教育相談、進路相談などを行い、認知面、運動面、社会面のスキルアップを図っています。



（校長 小寫 正嗣）